

城下町探訪 1

2009/4/2

うでぎもん 新井家の腕木門

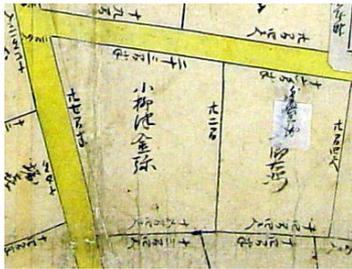
○新井家の門 松本市大手3丁目2番1号

今回は武家の門を尋ねてみたい。太鼓門や黒門等城郭の主要な入り口の門は櫓門や高麗門こうらいもんであるが中級の武士(諸士)の屋敷の門は意外に質素である。

幕末、南中小路南側の西端に戸田家家臣新井隆蔵(90石)の屋敷があり入り口に朱塗りの腕木門があった。今も幕末期の姿を伝えている。

享保13年(1728)「城下絵図」に同屋敷は小柳津金弥生(250石)がおり、天保6年(1835)には土岐五朗右衛門(170石)の屋敷であった。新井佳蔵は安政6年(1859)には新町に屋敷を拝領しており南中小路に屋敷換えがあったのは幕末になって隆蔵の代になってからである。

屋敷の広さは享保13年城下絵図で下図のようである。(約440坪)



新井家の腕木門

①規模

間口 295cm 開口部 140cm

高さ 約240cm 腕木門(朱塗り)

②構造 大扉は肘壺ひじつぼによる両面開き

潜り戸幅 63cm 高さ135cm

横猿よこざるによる施錠



なぜ朱塗りなのかは理由はわからない。朱雀すざくは方位でいうと南。城の南に当たる門なので朱雀=朱鳥(あかみとり)により朱に塗ったとする説もある。

東京大学構内の赤門は加賀藩前田家の門として有名であるが、文政10年(1827)徳川家斉の娘溶姫が前田家に嫁したときに造

られた門である。將軍の娘を迎えるとき朱塗りの門をその表に構える慣習が明暦の江戸大火後生まれたといわれる。(「国史大事典」)朱の色は火の色あるいは防火の力があると信じられていたのかもしれない。

※屋根は切り妻で現在はトタン葺きに替えられている。屋根の正面左側 30 c m程を棟木、屋根裏板、垂木を取り替えて補修し、棟木は鉄板で覆ってある。

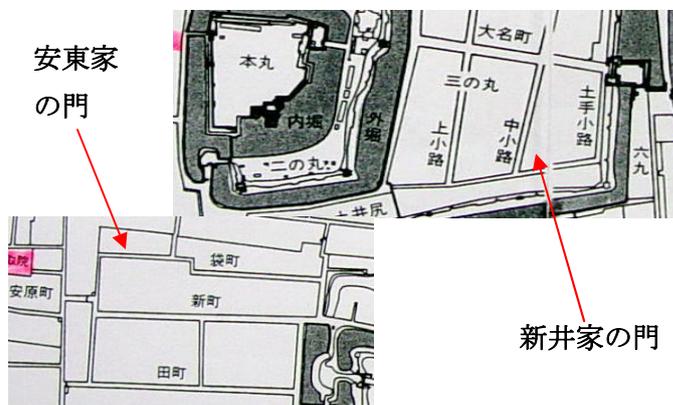
○安東家の門

松本市旭1丁目1番6号(旧袋町)



安東家は本家菅沼家とともに^{ふうでんりゅうそうじゆつしほん}風伝流槍術師範の家系で、幕末同家の知行は80石である。天保6年の「松本南北深志絵図」では南北18間半×東西20間で約330坪である。

安東家は弘化4年(1847)より現在地に居住しており同屋敷内の西側にある腕木門もそれ以来、位置、構造は変化なく現在に至っている。



※参考文献 「松本城武家の門調査報告書」松本古城会 平成13年

①規模

横幅(桁行) 392 c m
 奥行(腕木両端間) 131 c m
 高さ(地表~棟木) 261 c m

②構造

屋根 切り妻トタン葺
 開口部 主柱の間に左右引き分けの格子戸を吊す。
 柱 主柱2 脇柱2
 腕木 4本の出は片側59 c m
 その他 北側脇柱の西面に五角形と長方形の柄孔あり。